（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和7年　2月　10日	～	令和7年　2月　21日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）　14	（回答者数）	10
○従業者評価実施期間	令和　7年　2月　1日	～	令和　7年　2月　21日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）　4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　3月　14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日によって気持ちが不安定な場合や反抗期の時など、直ぐに個別・マンツーマンで対応ができること。また、保護者と情報を共有しながら、対応を統一することで安定した日々を過ごすことができ、利用児童・保護者に安心感を得られている。	日頃から、利用児童の動向や言葉の中に現れる変化や違いに気づけるよう、意識付けを行っている。また、利用児童の情報は常にスタッフ間で密に共有し、誰でもすぐに対応できるようにしている。	職員一人ひとり、利用児童と向き合う姿勢が統一され、同じ目標に進んでいけるよう、施設内研修等で向上を図っていく。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童の学齢期(小学1から中学3)幅が広く、集団活動のプログラムが少ない。	季節行事とは違い、成長と共に子ども同士の関わり方が変化し、グループができる。特に小学生、中学生に分かれて関わっている様子が見られている。	成長と共に関わる人や、考え方が違ってくるのは当然のことして、対象児童に合わせたグループでの集団活動を検討し、職員の割り振り、又はその日の活動担当者を決めていくなど工夫を検討中。
2	外部(地域)活動がない	平日の放課後後の時間帯では職員の送迎で手不足となり、外部での活動や地域参加が難しい　。	長期休暇を活用した、地域参加や外部との関係性を図っていきたい。
3			